

足立区立花保小学校
学校長 半田 英雄 様

足立区立花保小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 大山 光子
評価部長 野間 一夫

令和2年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

(1) 重点的な取組－1 学力向上

緊急事態宣言の発令による休業・分散登校で学力の保障が心配されたが、学校全体で指導内容の精選や進行管理を徹底され、授業時数を確保し、全学年の教育課程を修了されたことを高く評価する。毎日の授業時間を増加させる中で、パワーアップタイム、花保ステップタイムや放課後学習によって基礎学力の定着を図られていた。令和2年度の「足立区学力調査」の通過率の数値目標を6年連続して達成したこと、中学1年生の区学力調査でも、本校卒業生は好成績であった。足立区のボトルネックのひとつである「学力」において、中学校によりよい「学力」のバトンタッチができたことを嬉しく思う。

(2) 重点的な取組－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

保育園・幼稚園・中学校とは、新型コロナウイルス感染症予防対策のために、連携に制約があった。しかし、本校が連携する保育園・幼稚園とは、コロナ禍にあっても連絡会を開催し情報交換を行っていた。また、園児の校舎見学や、「展覧会」の観覧によって、小学校進学への期待感を高めることができた。

花保中学校の学力調査の結果が向上した。本校で学力をしっかりと身に付けさせての進学となったことも連携の成果である。そこからの相互の信頼関係もさらに深まった。また、コロナ禍にもかかわらず、6年生の中学校授業体験や部活動体験、生徒会学校説明会を実現させたことは、花保小学校、花保中学校共に高く評価できる。その結果、例年と同じように6年生が中学校進学への期待を高めることができたことは大変喜ばしい。

(3) 重点的な取組－3 教師の指導力向上

花保小学校の教員は、指導力向上への意欲が高く真摯に努力している。足立スタンダードの習得、ベテラン教員の若手教員への指導助言、管理職による学年面接や個人面接の実施、教科指導専門員による授業指導や助言により、授業力が着実に向上していることを評価したい。

(4) 重点的な取組－4 心の教育の充実

Q U調査や「サンクスイヤー」を実施し、児童の良いことへの行動評価を行うことによって規範意識と自己肯定感を高めることができたことは評価できる。「リーダー・イン・ミー」を心の教育の柱として全教職員で実践したことで、児童の非認知スキルを高めることができていた。また、代表委員・広報委員による「いじめ防止キャンペーン」活動、都オリ・パラ教育活動、都立花畑学園との交流において児童が活躍できたことは、大きな成果といえるだろう。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

コロナ禍で多くの教育活動が制限される中、休業中には、保護者の不安を払拭し励ますために、毎日「メール配信」を行った。また、通常登校後の行事等の実施に当たっては、前提として「中止」ありきではなく、感染防止策を徹底しながら、できることをできるように工夫し、「学年行事」や「体育授業公開」、「展覧会」などを実施した。

教職員は、多くの苦労があったと思うが、子どもたちのために、保護者のために、地域のために最善を尽くした教育活動を行ったことを誇りに思う。

3. その他

コロナ禍にあっても児童は落ち着いて学校生活を送っている。令和4年度には、50周年を迎える。地域の誇れる学校として、これからもしっかりと支援していく。